

令和2年度

第3回みどり市笠懸地区学校給食提供方式

検討委員会 記録

10月29日(木)

第3回みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会記録

令和2年10月29日（木曜日）

会議日程

令和2年10月29日（木曜日）正午開会

- ・笠懸小学校給食室 視察
- ・自校方式及びセンター方式給食の試食
- ・議題
 - 3 給食提供方式の概算費用の比較
 - (1) 初期投資・維持管理運営費にかかる費用の検証
 - (2) 概算費用の比較の整理
 - 4 評価項目の検討について

出席委員（11人）

委員長	堤 洋 樹	副委員長	後 藤 昌 宏
委員	神 戸 美恵子	委員	小 沼 和 彦
委員	阿 藤 恵 子	委員	金 子 浩 章
委員	須 永 麻 子	委員	橋 場 基
委員	森 田 峯 治	委員	田 村 孝 裕
委員	吉 田 努		

欠席委員（1人）

委員 大 澤 孝 志

傍聴（5人）

みどり市民3名、桐生タイムス社、上毛新聞社

説明のため出席した者

教育総務課長	金 高 吉 宏	教育総務課長補佐	黒 澤 寿 一
大間々学校給食センター所長	持 箸 圭 二	新設校準備係長	
		大間々学校給食センター主査	小 倉 敦 史

事務局職員出席者

新設校準備係指導主事

日 置 潤

総務係主査

小 林 洋 行

◎開会・開議

正午 開会・開議

◎事務連絡

[教育総務課長 事務連絡]

◎笠懸小学校給食室 視察

[笠懸小学校職員 説明]

◎笠懸小学校給食（自校方式）及び大間々学校給食センター（センター方式）の試食

[給食試食]

[笠懸小学校職員 説明]

[大間々学校給食センター職員 説明]

◎試食の感想（委員）

- ・センターも温かいです。
 - ・どちらもおいしいです。
-

◎諸般の報告

○委員長：諸般の報告です。本日は大澤委員が欠席ということでご報告を受けております。田村委員も途中からの参加ということでお越しいただいています。それから、金子委員は先ほど退出され、神戸委員もこのあと退出されるというご報告を受けております。

検討委員会の中で会議を公開することになっておりますので、各新聞記者及び一般の傍聴を許可するという事になっております。

以上で、諸般の報告を終わりますが、傍聴される方は、入室をお願いします。

[傍聴者 入室]

○委員長：それでは、次第に従いまして議事を進めさせていただきます。

◎議題

次第の3議題【第2回】1 保護者等の意見の整理について、2 みどり市の学校給食の提供方式の比較について、前回、意見交換を行いました。これに対して、何かご意見等があればお願いいたします。

[少し間あり]

○委員長：よろしいですか。

[「はい」の声あり]

◎議題

3 給食提供方式の概算費用の比較

(1) 初期投資・維持管理運営費にかかる費用の検証

(2) 概算費用の比較の整理

○委員長：それでは、3 給食提供方式の概算費用の比較について、事務局より説明をお願いいたします。

[事務局 説明]

○委員長：ありがとうございました。ただいま、事務局より説明がありました。

これに対して、何かご意見等があればお願いいたします。

[少し間あり]

○委員：センターを新しく建てる場合ですが、新しく用地を購入せずに既存の場所を活用するとすると、気になるのは配送時間です。センターでつくったものを笠懸地内の小中学校全部に配送しなければならないため、道路の渋滞状況などを考慮して調理から2時間で間に合う場所にちょうど良い用地があればいいが、既存の場所でこの平米の用地があるのかという問題がでてくる。

また、自校方式でも学校にある敷地で空いているところに建てるというのも良い案だと思うが、今見せていただいたとおり、どうしても給食をエレベーターで高層階に上げる必要があり、ここの笠懸小学校でも30分はかかると言われていましたよね。

同じように、また場所が変わるとさらに時間がかかることになるので、別の用地に建てる際にも、エレベーターで上げることも考える必要がある。どちらの提供方式でも配送時間が課題と思いながら聞かせていただきました。

○委員：2点ありまして、アレルギーの発生の人数は大体何%ぐらいと考えているのでしょうか。段々アレルギーの人数が多くなって、極端な話、半分近くアレルギーの子がいて、この子は小麦はだめだと大豆はだめだとかいうことになると、すごく難しいと思うので、大体何%ぐらいを考えているかが1点。

それから、使う水についてですが、みどり市は最近、残留塩素濃度が低くなっています。いくつか理由が考えられるのですが、笠懸地区は皆、高架水槽受水槽なのですが、例えば、仮に自校方式になった時には、できれば高架水槽受水槽の近くのほうでないと、なかなか残留塩素濃度が0.1以上確保できないことも将来的にあるかなと思います。水道の残留塩素濃度を維持できるように、いろいろなものを改修するのは、みどり市にはかなり時間がかかると思うので、ぜひそれはお願いしたいと思っています。

○委員長：アレルギー関係はパーセントでしていましたよね。

○事務局：約2%です。

○委員長：ほかに、何かございますか。

[少し間あり]

○委員長：特に、センターは基本的に市が所有する敷地で考えていただいたほうが良いと思います。立地のよい用地があれば前提ですけれども、よい市有地があればきちんと使っていただきたい。どちらにしても今後は学校全体の施設建替の話になってきますし、ここであまり多くの費用を使うよりも、金額を減らして、例えば学校の建替のほうに回していくことが必要になってくると思います。

逆に言えば、土地を購入することを前提に話をして欲しくない。これは自校方式の場合、そもそもの敷地が足りないということが大前提になるのでなかなか難しいというのがあります。その点ではセンターは可能性はあると思う。実は私、きょう午前中、近くの施設に行って回ってきたのですけれども、かなり立派な施設がたくさんありますので、土地はたくさんあるのではないかと。どこにセンターをつくるのかで学校に入るまでの時間にも当然影響しますので、そこは考慮が必要だし、先ほども話があったように、どちらかという、配送よりも学校に入ってから時間がかかってしまうので、それを工夫しないと難しいのかなと感じました。

費用の計算は、長期間になればなるほど分からないのですが、例えば、資料の10ページ、おそらくこれは当初の規模を継続した計算で20年ですね。実際は、児童数も減ってきますし、これくらいの負担にはなるだろうという計画だということをご了解いただいた上で、先ほどの話に戻ると、例えば、20年後、おそらくどこかの学校は建替になっていると思いますので、併せて検討しなければいけない。

この委員会では、センター方式か自校方式の給食室の検討委員会ですけれども、それだけでは済まない。各学校と一緒に考えていくことは必要だと思います。

もう1つ、11ページの食育のところ、調理員との距離が近いから、匂いを感じることができるというのは、実は前回の会議で保護者からの意見の中にもでてきた内容だと思っており、それが反映されたのだと思いますが、これはどちらにしても改修してしまえば、なかなか調理員と生徒が会いづらくなり匂いもしづらいつているのですけれども、そうすると自校方式もセンター方式もあまり差はないのではないかと個人的には思っています。逆に言うと、調理員との交流というのは、積極的にしていかななくてはいけないと思いますので、こういうしくみをどうするかという話になるかと思えます。

○委員：今のことに付け足していただいてよろしいですか。11ページの食育のところ、匂いのことがありますけれども、栄養士さんや調理員さんに伺う機会があって、やはり生徒から「きょうの給食何？」とか、「いつもおいしいよ」とかいう声かけがあるとモチベーションが上がると言っていました。調理員さんや栄養士さんは安全に作るということは1番に考えて一生懸命やっているのですけれども、心の持ちようというのは、そういったモチベーションによって維持されるという面もあるので、それはかなり大事なことなのではないかと思っています。

○委員長：もちろんそうだと思います。ただ逆に言うと、給食センターだとモチベーションがないという話にはならないと思います。

○委員：例えば、ウェット方式を各学校でドライ方式にすると、今の匂いの問題はドライ方式にし

たらもっと薄くなりますか。

○委員：ドライ方式にしても匂いの出し方は関係ありません。今は古い施設ですが、最新のものは違っていますので、新しい施設にすると、吸気と排気が機械になりますので、その分匂いも外にだしてしまうので、今までよりは教室内には匂ってこなくなるかもしれません。

○委員：そういうことですね。過去の匂いが良かったとかいうのはそんなに気にしなくてはいいいのかなと思います。

○委員長：匂いは記憶に残るのですよね。ですから、保護者の方は匂いがしたほうがいいのかという話ですけれども、おそらく給食室で作っている匂いではなく、そこから運ばれて教室の前に置いて、匂ってくるので、センター方式でも一緒だと思います。ただ、センター方式のほうが容器がかなりしっかりするので、そこは匂わなくなるのではないかなという気がしています。

○委員：きょう給食食べて、お吸い物もあったが、ほとんど変わらないと思いました。そのくらい冷めない感じで移動できるのであれば、ここに書いてあるとおり、これから経費のかからないほうがいいですね。

○委員長：経費についてはまた評価させていただきますけれども、経費以外の先ほどお話があったモチベーションが上がることも含めて、どちらがいいか決めていくことになります。

○委員：モチベーションが上がるのは、食育にはならないですね。調理員さん側の気持ちになるので、子供たちの気持ちではないです。

ただ、子供たちが実際作業しているところを見られるということは、子供たちの感謝の気持ちになるとか、直接見られるというのは食育につながることはあるかと思います。

ただし、実際に学校の中で、全員が全員給食室を毎日見に行っているわけではなく数名だけなので、センターで調理したものをビデオに撮って、それをご飯を食べる時間に毎日10分でも5分でも流すとかすれば、全ての子供たちが見ることができます。作る側のモチベーションが高いか高くないかで言われると、確かに、調理員さん皆さんそう言われているので、間違いない話なのですが。

○委員：生徒からしてみると、廊下などで会う時に給食の先生と分かるわけで、そういう時の声かけだと思う。食育とは違うのですが、調理員さんのモチベーションを上げるというのは、とても大事なことだと思っています。

あと1つ、アレルギーのことですが、多分食事アレルギーの全国的数値は6%だと思います。大体6年で2%上がっているのを見たことがあります。最終的には何年かで10%ぐらいになってしまうのではないかと予想しているので、計算の時にそのくらい入れていただきたいと思います。それで、例えば、センターで対応することが可能かどうかということも検討が必要だと思います。

○委員：7大アレルゲンは基本的に皆さん覚えられますのですが、そのほかに、メロンの産地のところでは、メロンアレルギーの子が多く、そういうところではメロンをいれたり、スイカをいれたり、7大にプラスして入れる場合があります。最初から7つのアレルゲンで全部対応できるかということ、今までアレルギー対応食をやっていなかったところで、急に多くのものをしてしまうと混乱してし

まう。

そのため、最初は牛乳と卵の2点から始めることが多いです。大抵100食から200食分をできる設備を整えてという設定で計画をしているので、アレルギーの子は、牛乳の子が5人、卵の子が5人というように、全員が全員100人ずついるわけではなく、5人、5人、10人という分担になるので、100人分作っておけば、ある程度人数がふえていっても、対応できるようにするために、元々アレルギー室を作る時は少し大きめの部屋で作る、それが最初のコンセプトで大切なのは、何種類やるのかと除去食なのか代替食なのか、その最初の設定で1回に何食まで対応できるのか。例えば、4か所調理するところを作っておいて、でも栄養士の先生が献立を作る時に、アレルギーが1日の献立の中に4つ入るような献立はつくらない。自分たちも危険なのが分かるわけですから、食材の取り扱いについては配慮がなされるので、実は、人数がふえていっても対応できる施設ができていて、尚且つ、最初のコンセプトであるアレルギーの対応をしていくということが今、全国的に作られているアレルギー施設のあり方だと思います。

そういう設定の仕方をしていくというので、もちろん例外としてふえてはいくのですが、それに対応できるものを最初からのコンセプトで市で決めていただければ、問題ないと思います。

○委員：私が言いたいのは、2%の仮定だと少ないのではないかとということです。センター方式にしる、自校方式にしる、これから作った場合に10年、20年後にアレルギーに対応したほうが良いと思われる人数は10%以上を考えておいたほうが良いのではないかとということです。

そうした場合に、センター方式でどれぐらい可能かとか、その算出ができてくるわけなので。

○委員長：その辺の数は、実際に作る時にまた検討していただくほうが。

○委員：検討する時に、2%だと少ないのではないかとということです。

○委員長：このご意見を参考に検討していただきたいと思います。

○委員：土地の問題ですが、地元なので中学校2校、小学校3校を知っているのですが土地がない。例えば、自校方式にしたら3倍ぐらい必要とみてきたが、実際はほとんどないと思います。資料をみると、笠南中だけはあると書いてあるが、そういうことを考えて、先ほど話にでましたとおり、学校のほうの老朽化を考えたら、新しくと思います。

この検討委員会は、笠懸西小に給食室を作るか作らないかという検討委員会なのですが、それを過ぎると、そういう話になると思うので、その時には、学校に増築するのは難しいという意見をだしておきます。

○委員長：今の話は会議の中で調整させていただきたいのですが、この委員会自体は、笠懸地区全体の話なのですが、近々では笠懸西小をどうするかの話であって、給食提供方式の方向性をだすという流れで、次回、ある程度の方向性をだすということで、進めさせていただきたいと思います。

ほかに、何かございますか。

[少し間あり]

○委員長：よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○委員長：ご意見等もないようですので、3 給食提供方式の概算費用の比較については、終了させていただきます。

4 評価項目の検討について

○委員長：続きまして、4 評価項目の検討について、事務局より説明をお願いいたします。

〔教育総務課職員 説明〕

○委員長：ありがとうございました。それでは、4 評価項目の検討について、何かご意見等があればお願いいたします。

○委員長：①から⑤までだと思うのですが、ほとんどの項目がクリアするのではないかという気がするのですが、比較しづらいです。例えば⑤は逆にどういうことをされているかというのを比較できるようにしていただくと、どちらが良いか話ができると思うのですが、これだけだとよく分からないと思います。

基準としてはもう決まっているので、この辺は評価しようがないと私は思っていますがいかかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○事務局：例えば、基準で国から示されている観点については、どちらの方式であってもクリアしていることは当然のことですので。あとでこちらで検討させていただいてもよろしいでしょうか。

○委員長：違いがでるものだけ並べていただいて、どちらが良いかという話のほうがいいかと思いません。

○委員：1番の項目は、学校給食衛生管理基準の中の第1評から第4評までの項目の中のものだと思うのですが、これは毎年検査をしているというか、直せるところがあれば直してくださいというような感じで対応している。

それから、調理後2時間以内の給食というのは国が示す基準なのですが、これは共同調理場の場合のトラックをきちんと整備せよということが目的なのかなと私は理解しているのですが。確かに両方できていると思うのですが、違いがあるところをリストアップしてもらったほうが良い。自校方式のほうがどうしてもコストが高くなるので、そのコストに対して10年、20年後のみどり市がきちんとフォローできるか、笠懸地区ばかりがたくさん負担がかかって大間々地区のほうは今までと同じセンター方式なので、その差が開きすぎるとか、そういうことを知りたいです。

○委員長：今の話は項目としては、その他になりますかね。

○委員：2時間というのは、トラックの配備ことだと思うので。

○委員長：多分、そういうことだと思います。

○委員：共同調理場においては、調理した食事を調理後2時間以内に給食できるようにするための配送車を必要台数確保することと明記されています。

○委員長：どちらも同じに配食しているので比較しづらいかなと私は思います。そこは、時間が延びたらまずいという話になるが。基本的には①から⑤は、どちらもクリアすると思います。もし違いがあれば、明確に分かるようにしていただいて、それについて評価するという流れでよろしいでしょうか。

○委員：1番最初のほうで、資料を見て判断してくださいと言われましたよね。ここが多分、ここに載ってきているのだと思います。資料の中に載せることで、比較対照でだしているのです、どうしてもここに限定されるものであって、分かったことはどちらも○で記載していただいて、市のほうで○×を最初からつけてしまって、それを見ながら議論したほうが、もし決めるのだったら委員さんも含めて○×をつけていく。資料を見返してもやはり難しい。確かにきょうの学校は見せていただきましたけれども、ほかの学校はできているかどうか分からないところもありますし、そのような資料を作ってもらったほうが議論はしやすいような気がします。

○委員長：そういうことでお話をしていただいて、進めていければと思います。

○事務局：先ほどいただきましたご意見なども、今後検討をさせていただきまして、見方を変えるような形でご判断いただくことも検討していきたいと思います。その中で、恐縮ではあるのですが、2枚目も少し一緒に確認させていただいてもよろしいでしょうか。

〔教育総務課職員 説明〕

○委員長：ありがとうございます。当初の予定と方向性が少し変わってくるのですが、評価しないといけない項目をもう1度確認していただいて、その項目があれば、言っていれば考慮していただけるということです。

先ほどご提案がありましたが、自校方式だからどうというわけではなく、自校方式でドライシステムを導入するということになれば一緒ですよという話になりますので、その辺は整理していただいた資料で最終的な評価をするという流れで考えていければと思っております。

私からまず、項目についてなのですが、アンケートにでてきた項目は検討しましたという形を示すためにも評価項目の中に入れてほしいと思います。それから、費用の話も検討しているので、検討したことは項目に入れてほしいと思います。

○委員：アンケートというのは、前に笠懸地区で父兄にしたアンケートのことですよ。あの時は、センター方式は衛生的、自校方式は危うい状態で調理をしているというようなものが大元にあるらしくアンケートをとっていると感じました。だから、それをスライドしてこちらのほうに入れるのはなかなか難しいと思います。

それから、⑩地元産食材の提供による郷土料理や地元食材への理解を図っているというのは、意味がよく分かりません。栄養士などによる指導で、これは生徒に図っているということですか。

○事務局：子供たちの理解が深まるよう、献立表に書いたり、放送で紹介したり、栄養士が直接言葉で伝えたり、子供たちの理解をさらに深めるような取組をしているということです。

○委員：もう1つ伺いたいのですが、大間々学校給食センターはオール電化だと思うのですが、笠

懸はガスや電気とかインフラのことはどうなのですか。災害があった時に、オール電化でこの間、千葉で1か月以上停電状態がありましたよね。オール電化だとそうなる可能性もあり得ますよね。

○委員長：おそらく電気が停まったら、ほかの電化製品も一緒かなと思います。

○委員：でも、プロパンガスは使えますよね。

○委員長：もちろん使えます。

○委員：笠懸はどうなのでしょう。

○事務局：プロパンです。

○委員：今、自校方式はプロパンガスを使っているのですか。

○事務局：はい。

○委員：そういうインフラの使い方は災害時には影響がでてくるかと思います。

○委員長：そういう話をいれていただくのは問題ないのですが、その話をしだすといろいろなことを考えなくてはいけなくなる。大間々学校給食センターはオール電化で最新の施設という話なので、災害のほうの話でプロパンがいいとか爆発したらどうするなど収集がつかなくなるので、個人で検討していただくのは構わないです。

○委員：1番最初の時に、方向性を決めておいたほうが、混乱しないのではないのでしょうか。できた時に、これはしまったということがないと思うのですが。

○委員長：今回は、センター方式か自校方式かという話の中に設計の細かい話までしてしまうと難しく、方向が決まればそこに対して、どういう対策をとるかという検討が次のステップで行われるのですね。

もちろん気になる点は明記していただければいいのですが、ここで議論し始めると、まだなにも決まっていない時点で議論していることになります。

○委員：退出した委員さんから伝言をいただいていますので、発表をさせていただきます。大項目2、安心安全な給食の提供というところで、⑦⑧⑨については、自校方式であろうとセンター方式であろうと行わなければならない項目ですね。⑩についても、自校方式でもセンター方式でも委託になりますので、比較が難しい。大項目5、6につきましても、自校方式、センター方式どちらも同様にすることができると伝言をお預かりしました。

○委員長：委員もご意見をいただければと思います。

○委員：やはり、冒頭でお話がありましたが、全体的に、自校方式、センター方式を比較して評価するというのではなく、この項目自体がどちらでも共通して言えることですので、もう少し比較できる項目であればと感じました。

○委員：学校給食実施基準とありますが、栄養士であれば、絶対守らなければいけないものなので、例えば、きょうの給食の比較をしてどうかというのなら分かるのですが、これから新しくなるセンターと自校方式のことを想定して比較するのは難しいと思います。

○委員：それぞれどちらであっても、クリアしなくてはいけない項目だと思いました。イニシャル

コストは考えなくてもいいかもしれませんが、そのあとのランニングコストは入れておいたほうがいいのではないかと思います。

○委員：自校方式もセンター方式も全く同じことをしているので、これ自体が比較できないと思います。

○委員：先ほど須永先生からもあった保護者のアンケートに関して、もし、自校方式の今の形がどちらかというセンターとの設備の違いがあったことで差が生まれてしまうのであれば、このアンケートも見直さなければならぬ部分かと思えます。

保護者がもし新しい自校方式もドライ方式を採用して新しい設備になったことを想像してもらった中で、もう1度アンケートに答えていただくようなところで、自校方式の設備自体がどうしても古い部分もありますので、そこは不利になるというか、そこですでに差がでてしまっているところを基にアンケートをとられているのであれば、もう1度見直していただいたほうがいいのではないかと思います。

あと、先ほど、ほかの委員さんからもでてるように、ある一定基準の部分はこちらも差がないというところで、プラスどちらが魅力的なのかという部分も含めた評価になってしまうのではないかと。PTAを長くやっていると、自校方式かセンター方式なのか長く話をしてきた中で、どちらかという笠懸地区の方の誇りというか、私たちはずっと自校方式の給食でやってきたのだという誇りの部分があり、そこを魅力として打ち出していると思います。

ただそれが、設備が魅力に見合っていないというか、老朽化してしまうからということなのですが、その部分が特に学校を卒業した保護者となって、もちろん自分もこの生徒であって、自校給食をトータル9年間食べてきていますので、その部分の魅力は分かるので、やめないでほしいという部分がアンケートにでてしまうのはいけないなというところがあったので、その部分をもう1度検討していただけたらいいと思います。

○委員長：前半話し合った件ですけれど、評価項目に入れてほしいというのは、例えば設備の面が悪いのであれば、設備の面をきちんとここにいて、自校方式でもセンター方式でも同じになりますよと記されないと、当然、設備が古い自校方式が不利となる。どちらの設備も一緒ですよと載せてあげることが必要なと思って話させていただいたということです。

これに対して、検討したかどうかをきちんとお示するのがいいと思っています。ここが1番難しいところで、どう評価するかという話になってくるので、逆に言うと、そこを任されている委員会だと思っておりますので、是非ご意見等だしていただければと思っています。

○委員：ほかの委員さんと同じ意見になってしまうのですが、そもそも提供方式で違うところは名前だけだと思っていて、要するに足りなければ補ってあげれば良いのであって、あとは食育についても栄養士さんは子供とも近い存在で、私も子供の頃よく言われたのですが、給食のおばちゃんがせっかく作ってくれたのに残していいのかということですよ。

でも、学校の子供たちは、栄養士の先生の顔を見ながらご飯を食べていることもあり、それは非常

にいいと思います。センター方式でもセンターの栄養士が来るので、違うところはどこかという、資料の10ページ（概算費用の比較）だけなのではないかと思います。

○委員：きょうの話を知ると、どうしたってコスパがいいのでセンター方式がいいですと聞こえてしまうのですが、実は、大切なのは子供にどれだけ安全なものを提供できるか否かですよね。

論点はそこにあって、安い高いは実はあとから附属してくる部分だと思っている。2番の安心安全な給食というところの差がどれくらいでいるかであって、自校方式では新たに立て替えた場合、センター方式では新たに建設した場合と書いてあるのですが、それは同条件で建ててこの金額の差は嘘です。センターは安全性を高めるために食材毎にシンクを分けるなどいろいろなことを行っています。センター方式と同条件の自校方式を建てられるのかといたら100%無理です。

そのために自校方式でできることは、シンクはなるべく多めに置いたけれど、ほかの食材とつかないように中にたらいをいれて、まずたらいの中で洗ってシンクの周りに汚れがつかないようにして、それが終わったらだして、シンクを洗って水を貯め直して。決してこれは同条件ではないですし、同じ安全性かと思ったらそうではないと思います。

そういう細かい部分になってしまうのですが、そういう比較対照がだされないと、ただ単にお金が安いからセンターにもっていくというニュアンスに見えてしまうと感じています。だからといって、センター方式が絶対安心で自校方式が安心ではないといっているわけではないです。やり方はいろいろあると思うので、そのために良いところ、悪いところをみつけてやるのがいいと思います。これでは比較のしようがないという話だと思いますので、もう少し、安心安全な部分を拾った上で比較をやられるのがいいと思います。

○委員：自校方式だったら今のところを壊してそこに建てるのか、ほかのところにつくって、自校方式をやりながらすぐ新しいところを使えるのかとか、いわゆるタイムラグがどれくらいあるのか。全部がいったんにできれば1番いいのですが、そうはいかないので、その時間差や年数を知りたいです。

○委員長：今後どう給食室を改修していくかというタイムスケジュールのようなものを書き出してください、比較したいということですね。

○委員：全部いったんに新しくなれば安心ですねとなるかもしれませんが、例えば、費用もかかることだから、自校方式であれば、こちらの学校は新しいのができたけれどこちらの学校は5年後になりますとか、10年後になりますとかいうのだったら、その間は不安材料が残りますよね。時間の差がどれくらいあるか知りたいです。

○委員長：いったんに解決するかそうではないかということですね。学校自体の建替も含めて検討しないといけないので、そんな簡単に今すぐでと思えませんが、検討していただいてこれくらいのことを今考えているということを示していただいて、比較するという流れでどうでしょうか。

○委員：それがいわゆる判断材料で、そんなに時間がかかるならセンター方式のほうが安全だという判断につながるのです。

○委員長：すぐ対応できるか、そうではないかということが判断材料になるということで、そういったところを少し整理していただくということになると思います。

ほかに、何かございますか。

〔少し間あり〕

○事務局：慎重に議論いただきまして、ありがとうございます。最初に私のほうで、今後の評価の流れということで確認させていただきました時に、きょう皆さんからいただいたご意見を踏まえて、評価表をお送りして、評価をして送り返していただくようなご説明をさせていただきましたけれども、今のいろいろなご意見などを踏まえますと、もう1度ご検討していただくほうがいいと思いますので、このような形で流れを修正させていただきますので、よろしく願いいたします。

○委員長：時間も経過しておりますので、本日の委員会を終わりにしたいと思います。

4 その他

○委員長：続きまして、4 その他に入ります。事務局より説明をお願いいたします。

〔教育総務課長 説明〕

○委員長：以上で、本日の委員会の審議は全て終了いたしました。これをもって、第3回みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会を閉会といたします。大変お疲れさまでした。

◎閉 会

午後2時40分閉会

